

津山城百聞録

前回、津山城は本丸から築造が開始されたと推定されることを書きました。今回は津山城を代表する建造物である天守（ここでは一般的な「天守閣」という語は使用せず、「天守」で統一します）の石垣について検討します。

現状では天守台（天守の載る石垣）の東側に石段が設置されていて、北から南へ向かって登り、天守穴蔵（地下室）に到達するようになっています。ところで天守台の石垣は前回示したの技術で築かれているのに対して、石段の部分はの技術で構築されており、明らかに石段の方が新しい状態を示しています。天守台と石段で石垣の積み方が違うということは、何を示しているのでしょうか。

津山城の天守の絵図面を調べてみると、石段はすべて北から天守へ登るように描かれており、石段が記載されている最も古いものは元禄年間（1688～1704）のもので、現在知られている中で最も古い絵図である「美作国津山城絵図」（1600年代半ば）では残念ながらこの石段は天守の陰に隠れて描かれていません。よって絵図から検討する限りでは、少なくとも元禄以降には石段は現状のように北側から登るようになっており、それ以前については分からないという結論に至ります。

ところで、天守の南側にある五番門の北側の石垣に不思議な痕跡が認められます。現状では南面する東西方向の石垣なのですが、その途中に石垣の角に用いる「算木積み」の手法が認められるのです。これはこの部分の石垣が幅4メートル程度途切れていた痕跡と思われる。つまり、この部分が通路となっていた可能性が考えられるのです。

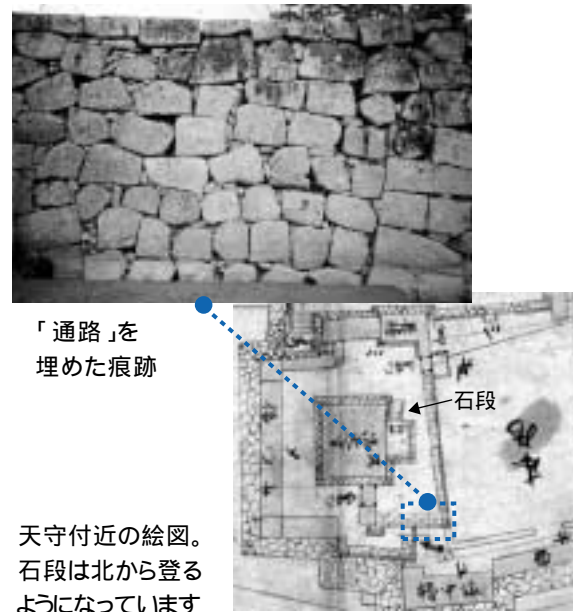
この部分が通路ならば、位置的には本丸御殿の奥向きから天守へ南から至るルート

上にあり、この部分を通して天守に至った場合、天守台に取り付ける石段は現状とは逆の南から北へ登るように設置されているのが自然だと思われます。

ここから先は推測ですが、当初の天守台周辺の設計は本丸御殿の南側を通り、天守台の石段を南から登り天守に至る通路を計画していたものと思われます。それがある時点で設計の変更が行われ、南側の通路となっていた空間はふさがれて石垣となり、本丸御殿の北側をう回して天守に至る設計へと変更されたため、天守台の石段も北側から登るようにつけ替えられたのだと思います。そのため天守台に設置された石段は天守台よりも新しい状態を示しているのではないのでしょうか。

ちなみに五番門の北側の石垣は「美作国津山城絵図」では現状どおりに描かれていますので、この変更は築城期間中から1600年代半ばまでの50年程度の間に行われています。

41 津山城の築城過程2 天守台の謎



「通路」を埋めた痕跡

天守付近の絵図。石段は北から登るようになっています

ですか？（郁）
取材で、津山最高峰の天狗寺山から烏ヶ仙への縦走に行ってきました。山歩きは心地よいとはいえず、日ごろの運動不足がたたり、もううたかた。でも、この後によく冷えた温泉もおいしいけど山登りもいいですよ。（e）
3歳の子どもとパンを買いに行きました。どれにしようか考えていると、ネズミがかじったようなパンを発見。砂糖がかかっているおいしいそうなパンです。「まさか」と思いうちをみると、なぜか口の周りが白い。「あ、あなた、でしょ。」
もちろん買いました。（ひ）

編集後記

最近、近くの温泉に何回も通っています。とくにむし暑く、じめじめした日には打って付け。気分もさっぱりします。そして、楽しみは何といてもその後のよく冷えた温泉。みなさんも楽しんで温泉はいかがですか？

今月の納税

市県民税 2期
国民健康保険料 2期
介護保険料 3期
納期限：9月1日（月）

ひとの動き

（7月1日現在）
人口 90,115人（前月比+46）
男 42,967人（同+28）
女 47,148人（同+18）
世帯数 34,822世帯（同+23）

6月中の異動数

出生 82人、死亡 47人
転入 193人、転出 182人

8月

2003

編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社

